

令和2(2020)年度「カリキュラム評価」(学年別)
【教育目標の達成状況について】

学年	教育目標の達成状況について																					
	1. 専門的知識・技術を身につけることができた	2. 科学的根拠に基づいて実践する能力を身につけることができた	3. 自分の看護実践の過程を評価できるようになった	4. 生命と人権を尊重した高い倫理観を養うことができた	5. 豊かな感性により人間の感情・意思及び自己決定権を尊重する態度を養うことができた	6. 文章や他者の意見を理解する力が向上したくなった	7. 他者に対する寛容性を持つことができるようになった	8. 人間を包括的に理解することができるようになった	9. 人との信頼関係を基盤とした人間関係を形成できるようになった	10. 個性に対応した看護を行うことができるようになった	11. 社会人として必要な言葉遣いやマナーを身につけることができた	12. 文章や他者の意見をふまえて自分の考えを説明する力が向上した	13. チームで共同して活動するための個々の役割や責任について理解できた	14. チームの一員として他職種と協調・協働できる態度を養うことができた	15. 論理的・科学的に思考することができるようになった	16. 保健医療福祉に関する地域の特性を理解できるようになった	17. 教養と根拠に基づいて多角的に物事を分析できるようになった	18. 地域の特性を踏まえ課題探求する力を養うことができた	19. 看護専門職として地域に関わろうとすることができるようになった	20. 課題解決に向けて主体的に行動・学習することができるようになった	21. 看護職として自らの行動に責任を持つ態度を養うことができた	
1年 (55)	平均	3.7	3.7	3.8	4.1	4.2	4.0	4.1	4.0	3.9	3.7	4.2	3.8	4.3	4.1	3.8	3.6	3.8	3.7	3.9	4.0	4.2
	標準偏差	0.7	0.7	0.9	0.8	0.8	0.8	0.7	0.7	0.9	0.9	0.7	0.9	0.7	0.8	0.8	0.9	0.8	1.0	1.0	0.8	0.8
2年 (41)	平均	3.7	3.5	3.6	4.0	4.0	3.9	4.2	3.9	4.0	3.6	3.9	3.7	4.1	3.8	3.5	3.6	3.6	3.6	3.7	3.8	4.2
	標準偏差	0.7	0.7	0.7	0.8	0.7	0.7	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.7	1.0	1.0	0.8
3年 (32)	平均	4.2	4.0	4.0	4.3	4.4	4.2	4.3	4.3	4.2	4.1	4.4	3.9	4.3	4.2	3.9	3.8	3.9	3.9	4.1	4.3	4.3
	標準偏差	0.6	0.6	0.6	0.6	0.5	0.7	0.5	0.5	0.7	0.6	0.5	0.8	0.5	0.6	0.7	0.8	0.8	0.9	0.5	0.5	0.7
4年 (25)	平均	4.3	4.1	3.8	4.3	4.2	4.2	4.2	4.0	4.0	4.2	3.8	4.2	4.2	4.2	3.7	4.0	3.8	3.9	4.1	4.0	4.3
	標準偏差	0.8	0.8	0.8	0.9	0.6	0.6	0.7	0.6	0.6	0.7	0.6	0.6	0.7	0.5	0.7	0.5	0.6	0.7	0.4	0.5	0.5

【カリキュラムの編成・工夫について】

学年	カリキュラムの編成・工夫について								
	1. 授業科目の各学年への配置は学習する上で適切だった	2. 基礎分野、専門基礎分野、看護専門分野の科目のバランスは適切だった	3. 基礎分野、専門基礎分野、看護専門分野の領域間の関連性が適切にとれていた	4. 各科目の授業時間数は適切だった	5. 学生が自由に選択科目を選択できるように授業科目が配置されていた	6. 看護専門分野において、基礎分野及び専門基礎分野で学んだことが役に立っていた	7. 興味や関心のある科目が配置されていた	8. 基礎分野の科目は幅広く開設されていた	
1年	平均	3.7	3.8	3.9	3.5	4.1	3.9	4.1	3.9
	標準偏差	0.9	0.8	0.8	1.0	0.8	0.9	0.8	0.8
2年	平均	3.9	3.9	3.8	3.9	3.6	4.0	4.0	4.1
	標準偏差	0.8	0.7	0.8	0.8	1.0	0.6	0.8	0.7
3年	平均	4.0	4.0	4.1	4.1	3.9	4.1	3.9	3.9
	標準偏差	0.9	0.8	0.8	0.9	0.9	0.8	1.0	0.9
4年	平均	3.7	3.9	3.8	3.7	3.6	4.2	3.9	3.7
	標準偏差	0.7	0.6	0.8	0.7	1.2	0.5	0.6	0.7

【カリキュラムの運用と学習支援について】

学年	カリキュラムの運用と学習支援について											
	1. ガイダンスを含む履修指導・履修相談は履修計画を立てる上で役立った	2. 履修手続きが円滑に行えるシステムが整っていた	3. シラバスは学習の見通しを立てる上で役立った	4. シラバスと実際の授業内容は合致していた	5. オムニバス形式(複数の教員が分担して担当する授業科目)は、学習上効果的であった	6. 演習のある科目では、演習が効果的に行われていた	7. 講義・演習で学んだことが実習で活かされた	8. 実習のガイダンスならびにオリエンテーションは適切だった	9. 実習(指導体制、実習施設、時期、期間など)は満足するものであった	10. 出席は適切にとられていた	11. 成績評価方法は、シラバスに従い適切だった	
1年	平均	3.4	3.9	3.8	3.3	3.7	4.0	3.9	4.0	3.8	3.9	3.7
	標準偏差	1.0	0.9	1.0	1.0	1.0	0.9	0.7	0.7	1.0	1.0	0.9
2年	平均	3.7	3.9	3.8	3.5	3.9	4.0	4.0	4.1	3.8	3.8	3.8
	標準偏差	1.0	0.7	1.2	1.0	0.8	0.9	0.7	0.7	1.0	0.9	0.7
3年	平均	3.6	4.1	4.2	3.9	3.6	4.2	4.3	4.3	3.7	4.2	4.1
	標準偏差	0.9	0.8	0.8	0.8	0.9	0.7	0.4	0.6	1.0	1.0	1.0
4年	平均	3.8	4.0	4.1	3.8	3.6	4.1	4.2	4.0	3.9	4.0	4.1
	標準偏差	0.6	0.6	0.9	0.7	0.8	0.5	0.5	0.7	0.7	0.9	0.6

【学習環境について】

学年	学習環境について													
	1. ラーニングコミュニティや学生ラウンジなど自主学習ができる十分なスペースがあった	2. 自主学習に利用可能なPCや教材は十分揃っていた	3. 図書館の成書や雑誌及び文献検索システムなどは充実していた	4. 教室環境(机、イスの配置など)は適切だった	5. 実習施設で、記録等に活用できる十分なスペースがあった	6. チューターによるサポート(個別相談、進路相談など)は学生生活を送る円滑に送るうえで助けとなった	7. 教職員は学生の関心事に耳を傾け、近づきやすい存在であった	8. 学生生活における安全対策が充実していた	9. 教務学生課は、学生生活を円滑に送るうえで助けとなった	10. 健康的な生活を送るうえで保健管理のための設備・サービスは充実していた	11. 奨学金制度は充実していた	12. 課外活動をサポートする環境が整っていた	13. 就職や進路に関するサポートは充実していた	14. 海外研修などの研修制度は充実していた
1年	平均	3.9	3.9	3.9	4.0	3.9	3.9	4.0	4.0	3.3	3.3	2.5		
	標準偏差	1.1	1.1	1.1	1.0	1.0	0.8	0.9	0.8	0.9	0.8	1.2		
2年	平均	3.7	3.7	3.7	3.8	3.8	4.1	3.5	3.9	3.4	3.6	3.3		
	標準偏差	1.1	1.1	1.1	1.2	1.1	0.9	0.9	0.8	0.8	0.8	1.0		
3年	平均	4.1	4.1	4.1	4.2	3.9	4.2	4.3	4.3	3.7	3.6	3.6		
	標準偏差	1.1	1.0	0.7	0.9	1.1	0.7	0.5	0.8	1.0	0.8	0.9		
4年	平均	3.4	3.5	4.1	3.4	3.4	3.3	3.4	3.9	3.7	3.5	3.7		
	標準偏差	0.9	0.7	0.5	1.0	0.8	0.8	0.7	0.5	0.7	0.8	0.7		

令和3(2021)年度「カリキュラム評価」(学年別)

【教育目標の達成状況について】

学年	教育目標の達成状況について																				
	1. 専門的知識・技術を身につけることができた	2. 科学的根拠に基づいて実践する能力を身につけることができた	3. 自分の看護実践の過程を評価できるようになった	4. 生命と人権を尊重した高い倫理観を養うことができた	5. 豊かな感性により人間の感情・意思及び自己決定権を尊重する態度を養うことができた	6. 文章や他者の意見を理解する力が向上した	7. 他者に対する寛容性を持つことができるようになった	8. 人間を包括的に理解することができるようになった	9. 人との信頼関係を基盤とした人間関係を形成できるようになった	10. 個性に対応した看護を行うことができた	11. 社会人として必要な言葉遣いやマナーを身につけることができた	12. 文章や他者の意見をふまえて自分の考えを説明する力が向上した	13. チームで共同して活動するための個々の役割や責任について理解できた	14. チームの一員として他職種と協調・協働できる態度を養うことができた	15. 論理的・科学的に思考することができるようになった	16. 保健医療福祉に関する地域の特性を理解できるようになった	17. 教養と根拠に基づいて多角的に物事を分析できるようになった	18. 地域の特性を踏まえ課題探求する力を養うことができた	19. 看護専門職として地域に関わろうとすることができるようになった	20. 課題解決に向けて主体的に行動・学習することができるようになった	21. 看護職として自らの行動に責任を持つ態度を養うことができた
1年 (71)	平均	4.3	4.2	4.3	4.6	4.5	4.5	4.4	4.4	4.2	4.4	4.3	4.6	4.6	4.2	3.9	4.2	4.1	4.3	4.5	4.4
	標準偏差	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.8	0.7	0.7	0.7	0.6	0.6	0.6	0.6	0.8	0.6	0.7	0.7	0.6	0.7
2年 (85)	平均	4.1	4.0	3.9	4.2	4.2	4.3	4.2	4.2	4.0	4.2	4.1	4.3	4.3	4.0	3.9	4.0	4.0	4.0	4.0	4.2
	標準偏差	0.8	0.8	0.8	0.8	0.7	0.7	0.7	0.7	0.8	0.8	0.7	0.7	0.7	0.7	0.8	0.7	0.7	0.8	0.7	0.7
3年 (40)	平均	4.0	4.1	4.2	4.6	4.4	4.4	4.5	4.2	4.2	4.3	4.5	4.1	4.3	4.3	3.7	4.0	3.6	3.8	4.4	4.5
	標準偏差	0.7	0.3	0.6	0.5	0.5	0.5	0.6	0.5	0.6	0.6	0.5	0.6	0.6	0.6	0.7	0.6	0.8	1.0	0.5	0.5
4年 (73)	平均	4.2	4.2	4.2	4.5	4.4	4.2	4.5	4.2	4.3	4.1	4.3	4.3	4.3	4.0	4.1	4.0	4.0	4.2	4.1	4.4
	標準偏差	0.5	0.5	0.6	0.6	0.6	0.6	0.5	0.5	0.6	0.6	0.6	0.6	0.7	0.7	0.7	0.7	0.8	0.7	0.6	0.5

【カリキュラムの編成・工夫について】

学年	カリキュラムの編成・工夫について														
	1. 授業科目の各学年への配置は学習する上で適切だった	2. 共通教養分野、連携分野、看護専門基礎分野、基礎看護分野の科目のバランスは適切だった	2. 教養と基礎分野、看護専門基礎分野、基礎看護分野、臨床看護分野、公衆衛生看護分野の科目のバランスは適切だった	2. 教養と基礎分野、看護専門基礎分野、基礎看護分野、臨床看護分野、公衆衛生看護分野の科目のバランスは適切だった	2. 基礎分野、専門基礎分野、看護専門基礎分野の科目のバランスは適切だった	3. 共通教養分野、連携分野、看護専門基礎分野、基礎看護分野の領域間の関連性が適切にとれていた	3. 教養と基礎分野、看護専門基礎分野、基礎看護分野、臨床看護分野、公衆衛生看護分野の領域間の関連性が適切にとれていた	3. 教養と基礎分野、看護専門基礎分野、基礎看護分野、臨床看護分野、公衆衛生看護分野の領域間の関連性が適切にとれていた	3. 基礎分野、専門基礎分野、看護専門基礎分野の領域間の関連性が適切にとれていた	4. 各科目の授業時間数は適切だった	5. 学生が自由に選択科目を選択できるように授業科目が配置されていた	6. 基礎看護分野において、共通教養分野、連携分野及び看護専門基礎分野で学んだことが役に立った	6. 基礎看護分野、臨床看護分野、公衆衛生看護分野、看護の統合分野において、教養と基礎分野で学んだことが役に立った	6. 基礎看護分野、臨床看護分野、公衆衛生看護分野、看護の統合分野において、基礎看護分野で学んだことが役に立った	7. 興味や関心のある科目が配置されていた
1年	平均	4.2	4.3			4.3			4.3	4.3	4.3	4.4		4.2	4.3
	標準偏差	0.7	0.7			0.7			0.7	0.8	0.6		0.9	0.9	
2年	平均	3.8		3.7				3.8	3.7	3.6		4.1		4.0	3.9
	標準偏差	0.8		0.8				0.8	1.0	0.6		0.8		0.8	0.8
3年	平均	4.1			4.2			4.1	3.9		4.4		4.1	4.1	
	標準偏差	0.7			0.6			0.7	0.8		0.5		0.7	0.5	
4年	平均	4.1				4.3		4.3	4.2	4.0		4.3	4.1	4.1	
	標準偏差	0.9				0.5		0.6	0.9		0.6	0.9	0.9	0.7	

【カリキュラムの運用と学習支援について】

学年	カリキュラムの運用と学習支援について										
	1. ガイダンスを含む履修指導・履修相談は履修計画を立てる上で役立った	2. 履修手続きが円滑に行えるシステムが整っていた	3. シラバスは学習の見通しを立てる上で役立った	4. シラバスと実際の授業内容は合致していた	5. オムニバス形式(複数の教員が分担して担当する授業科目)は、学習上効果的であった	6. 演習のある科目では、演習が効果的に行われていた	7. 講義・演習で学んだことが実習で活かされた	8. 実習のガイダンスならびにオリエンテーションは適切だった	9. 実習(指導体制、実習施設、時期、期間など)は満足するものであった	10. 出席は適切にとられていた	11. 成績評価方法は、シラバスに従い適切だった
1年	平均	4.1	4.3	4.3	3.9	4.0	4.5	4.3	4.4	4.4	4.3
	標準偏差	0.9	0.8	0.8	0.9	0.9	0.6	0.7	0.7	0.6	0.7
2年	平均	3.7	3.9	4.0	3.8	3.6	4.1	4.1	4.1	4.0	3.8
	標準偏差	0.8	0.8	0.8	0.9	0.9	0.8	0.7	0.8	0.9	0.8
3年	平均	3.8	4.0	4.1	4.1	3.8	4.4	4.3	4.4	4.0	4.2
	標準偏差	0.8	0.8	0.8	0.7	0.8	0.7	0.6	0.9	0.9	0.7
4年	平均	3.8	4.0	4.1	4.1	3.8	4.4	4.3	4.4	4.0	4.2
	標準偏差	0.8	0.8	0.8	0.7	0.8	0.7	0.6	0.9	0.9	0.7

【学習環境について】

学年	学習環境について													
	1. ラーニングコモンズや学生ラウンジなど自主学習ができる十分なスペースがあった	2. 自主学習に利用可能なPCや教材は十分揃っていた	3. 図書館の成書や雑誌及び文献検索システムなどは充実していた	4. 教室環境(机、イスの配置など)は適切だった	5. 実習施設で、記録等に活用できる十分なスペースがあった	6. チューターによるサポート(個別相談、進路相談など)は学生生活を送る円滑に送るうえで助けとなった	7. 教職員は学生の関心事に耳を傾け、近付きやすい存在であった	8. 学生生活における安全対策が充実していた	9. 教務学生課は、学生生活を円滑に送るうえで助けとなった	10. 健康的な生活を送るうえで保健管理のための設備・サービスは充実していた	11. 奨学金制度は充実していた	12. 課外活動をサポートする環境が整っていた	13. 就職や進学に関するサポートは充実していた	14. 海外研修などの研修制度は充実していた
1年	平均	4.4			4.5	4.4	4.3	4.3	4.5	4.5		4.2	4.0	3.7
	標準偏差	0.8			0.6	0.7	1.0	0.9	0.7	0.8		0.9	0.9	1.2
2年	平均	3.9			4.0	4.0	3.7	3.4	4.0	4.0		3.5	3.5	3.2
	標準偏差	0.9			0.8	0.8	1.1	1.1	0.8	0.9		1.0	0.9	1.1
3年	平均	3.9	3.9	4.4	4.2	4.0	4.2	4.1	4.3	4.2	4.1	3.7	4.0	3.8
	標準偏差	1.0	1.1	0.8	0.8	1.0	0.9	0.9	0.8	0.9	1.1	1.0	0.8	0.9
4年	平均	3.9	3.9	4.4	4.2	4.0	4.2	4.1	4.3	4.2	4.1	3.7	4.0	3.8
	標準偏差	1.0	1.1	0.8	0.8	1.0	0.9	0.9	0.8	0.9	1.1	1.0	0.8	0.9

令和4(2022)年度「カリキュラム評価」(学年別)

平均4.5以上

平均4.0未満

【教育目標の達成状況について】

学年	1.専門的知識・技術を身につけることができた。	2.科学的根拠に基づいて実践する能力を身につけることができた。	3.自分の看護実践の過程を評価できるようになった。	4.生命と人権を尊重した高い倫理観を養うことができた。	5.豊かな感性により人間の感情・意思及び自己決定権を尊重する態度を養うことができた。	6.文章や他者の意見を理解する力が向上した。	7.他者に対する寛容性を持つことができた。	8.人間を包括的に理解することができるようになった。	9.人との信頼関係を基盤とした人間関係を形成できるようになった。	10.個性に対応した看護を行うことができた。	11.社会人として必要な言葉遣いやマナーを身につけることができた。	12.文章や他者の意見をふまえて自分の考えを説明する力が向上した。	13.チームで共同して活動するための個々の役割や責任について理解できた。	14.チームの一員として他職種と協調・協働できる態度を養うことができた。	15.論理的・科学的に思考することができるようになった。	16.保健医療福祉に関する地域の特性を理解できるようになった。	17.教養と根拠に基づいて多角的に物事を分析できるようになった。	18.地域の特性を踏まえ課題探求する力を養うことができた。	19.看護専門職として地域に関わりようとしていくことができるようになった。	20.課題解決に向けて主体的に行動・学習することができるようになった。	21.看護職として自らの行動に責任を持つ態度を養うことができた。
1年(58)	平均 4.3 標準偏差 0.7	平均 4.2 標準偏差 0.7	平均 4.3 標準偏差 0.7	平均 4.4 標準偏差 0.7	平均 4.4 標準偏差 0.7	平均 4.3 標準偏差 0.8	平均 4.3 標準偏差 0.8	平均 4.3 標準偏差 0.7	平均 4.4 標準偏差 0.7	平均 4.3 標準偏差 0.7	平均 4.2 標準偏差 0.8	平均 4.1 標準偏差 0.8	平均 4.6 標準偏差 0.6	平均 4.4 標準偏差 0.6	平均 4.0 標準偏差 0.5	平均 3.8 標準偏差 0.7	平均 4.1 標準偏差 0.5	平均 4.1 標準偏差 0.7	平均 4.3 標準偏差 0.7	平均 4.4 標準偏差 0.6	平均 4.6 標準偏差 0.6
2年(82)	平均 4.0 標準偏差 0.7	平均 4.0 標準偏差 0.8	平均 3.9 標準偏差 0.8	平均 4.3 標準偏差 0.8	平均 4.2 標準偏差 0.8	平均 4.2 標準偏差 0.8	平均 4.4 標準偏差 0.8	平均 4.3 標準偏差 0.8	平均 4.3 標準偏差 0.8	平均 4.0 標準偏差 0.8	平均 4.2 標準偏差 0.8	平均 4.1 標準偏差 0.7	平均 4.4 標準偏差 0.7	平均 4.3 標準偏差 0.7	平均 4.0 標準偏差 0.8	平均 4.0 標準偏差 0.8	平均 3.9 標準偏差 0.8	平均 3.9 標準偏差 0.8	平均 4.0 標準偏差 0.7	平均 4.2 標準偏差 0.7	平均 4.2 標準偏差 0.7
3年(47)	平均 4.0 標準偏差 0.9	平均 4.1 標準偏差 0.7	平均 4.1 標準偏差 0.6	平均 4.4 標準偏差 0.6	平均 4.4 標準偏差 0.6	平均 4.1 標準偏差 0.6	平均 4.3 標準偏差 0.6	平均 4.2 標準偏差 0.6	平均 4.3 標準偏差 0.6	平均 4.2 標準偏差 0.6	平均 4.3 標準偏差 0.5	平均 4.0 標準偏差 0.6	平均 4.3 標準偏差 0.6	平均 4.3 標準偏差 0.5	平均 4.0 標準偏差 0.6	平均 4.0 標準偏差 0.8	平均 4.1 標準偏差 0.6	平均 3.9 標準偏差 0.8	平均 4.0 標準偏差 0.7	平均 4.2 標準偏差 0.5	平均 4.4 標準偏差 0.6
4年(51)	平均 4.3 標準偏差 0.6	平均 4.4 標準偏差 0.5	平均 4.3 標準偏差 0.5	平均 4.5 標準偏差 0.6	平均 4.6 標準偏差 0.5	平均 4.4 標準偏差 0.6	平均 4.7 標準偏差 0.5	平均 4.3 標準偏差 0.5	平均 4.5 標準偏差 0.7	平均 4.4 標準偏差 0.5	平均 4.6 標準偏差 0.5	平均 4.1 標準偏差 0.5	平均 4.5 標準偏差 0.5	平均 4.4 標準偏差 0.6	平均 4.3 標準偏差 0.5	平均 4.2 標準偏差 0.8	平均 4.3 標準偏差 0.6	平均 4.1 標準偏差 0.7	平均 4.3 標準偏差 0.6	平均 4.4 標準偏差 0.5	平均 4.5 標準偏差 0.5

【カリキュラムの編成・工夫について】

学年	1.授業科目の各学年への配置は学習する上で適切だった。	2.一般教養分野、看護専門基礎分野、基礎看護分野の科目のバランスは適切だった。	3.共通教養分野、連携分野、看護専門基礎分野、基礎看護分野、臨床看護分野、公衆衛生看護分野の科目のバランスは適切だった。	4.一般教養分野、看護専門基礎分野、基礎看護分野の領域間の関連性が適切にとれていた。	5.共通教養分野、連携分野、看護専門基礎分野、基礎看護分野、臨床看護分野、公衆衛生看護分野の領域間の関連性が適切にとれていた。	6.各科目の授業時間は適切だった。	7.学生が自由に選択科目を選択できるように授業科目が配置されていた。	8.基礎看護分野において、一般教養分野及び看護専門基礎分野で学んだことが役に立っていた。	9.興味や関心のある科目が配置されていた。	10.一般教養分野の科目は幅広く開設されていた。	11.共通教養分野、連携分野の科目は幅広く開設されていた。
1年	平均 3.8 標準偏差 1.0	平均 3.9 標準偏差 0.9	平均 4.1 標準偏差 0.9	平均 3.7 標準偏差 1.1	平均 3.8 標準偏差 1.2	平均 4.2 標準偏差 0.8	平均 3.8 標準偏差 1.2	平均 4.0 標準偏差 1.0	平均 3.8 標準偏差 1.2	平均 4.0 標準偏差 1.0	平均 3.8 標準偏差 1.0
2年	平均 4.0 標準偏差 0.8	平均 4.0 標準偏差 0.8	平均 4.1 標準偏差 0.8	平均 3.8 標準偏差 1.0	平均 3.5 標準偏差 1.1	平均 4.1 標準偏差 0.8	平均 3.8 標準偏差 1.0	平均 3.8 標準偏差 1.0	平均 3.8 標準偏差 1.0	平均 3.8 標準偏差 1.0	平均 3.8 標準偏差 1.0
3年	平均 4.1 標準偏差 0.8	平均 4.1 標準偏差 0.6	平均 4.1 標準偏差 0.6	平均 4.1 標準偏差 0.8	平均 3.7 標準偏差 1.1	平均 4.1 標準偏差 0.6	平均 4.1 標準偏差 0.8	平均 4.1 標準偏差 0.7	平均 4.1 標準偏差 0.8	平均 4.1 標準偏差 0.7	平均 4.1 標準偏差 0.7
4年	平均 4.2 標準偏差 0.7	平均 4.3 標準偏差 0.6	平均 4.3 標準偏差 0.6	平均 4.3 標準偏差 0.7	平均 4.2 標準偏差 0.8	平均 4.4 標準偏差 0.7	平均 4.4 標準偏差 0.8	平均 4.1 標準偏差 0.8	平均 4.1 標準偏差 0.8	平均 4.1 標準偏差 0.8	平均 4.2 標準偏差 0.8

【カリキュラムの運用と学習支援について】

学年	1.ガイダンスを含む履修指導・履修相談は履修計画を立てる上で役立った。	2.履修手続きが円滑に行えるシステムが整っていた。	3.シラバスは学習の見通しを立てる上で役立った。	4.シラバスと実際の授業内容は合致していた。	5.オムニバス形式(複数の教員が分担して担当する授業科目)は、学習上効果的であった。	6.演習のある科目では、演習が効果的に行われていた。	7.講義・演習で学んだことが実習で活かされた。	8.実習のガイダンスならびにオリエンテーションは適切だった。	9.実習(指導体制、実習施設、時期、期間など)は満足するものであった。	10.出席は適切にとられていた。	11.成績評価方法は、シラバスに従い適切だった。
1年	平均 4.0 標準偏差 1.0	平均 4.1 標準偏差 0.9	平均 4.1 標準偏差 0.9	平均 4.2 標準偏差 0.8	平均 3.6 標準偏差 1.1	平均 4.4 標準偏差 0.8	平均 4.3 標準偏差 0.7	平均 4.2 標準偏差 0.8	平均 4.2 標準偏差 0.7	平均 4.1 標準偏差 0.9	平均 4.0 標準偏差 0.8
2年	平均 3.9 標準偏差 1.0	平均 4.2 標準偏差 0.9	平均 4.1 標準偏差 0.9	平均 4.1 標準偏差 0.8	平均 3.7 標準偏差 0.9	平均 4.2 標準偏差 0.8	平均 4.3 標準偏差 0.8	平均 4.3 標準偏差 0.8	平均 4.2 標準偏差 0.9	平均 4.0 標準偏差 1.0	平均 4.2 標準偏差 0.8
3年	平均 3.8 標準偏差 0.8	平均 4.1 標準偏差 0.7	平均 4.1 標準偏差 0.7	平均 4.1 標準偏差 0.8	平均 3.9 標準偏差 0.7	平均 4.1 標準偏差 0.8	平均 4.1 標準偏差 0.7	平均 4.2 標準偏差 0.6	平均 4.1 標準偏差 0.8	平均 4.2 標準偏差 0.8	平均 4.0 標準偏差 0.8
4年	平均 4.1 標準偏差 0.7	平均 4.4 標準偏差 0.8	平均 4.4 標準偏差 0.7	平均 4.4 標準偏差 0.5	平均 4.2 標準偏差 0.6	平均 4.4 標準偏差 0.6	平均 4.4 標準偏差 0.5	平均 4.4 標準偏差 0.5	平均 4.2 標準偏差 0.6	平均 4.2 標準偏差 0.9	平均 4.3 標準偏差 0.7

【学習環境について】

学年	1.ラーニングコモンズや学生ラウンジなど自主学習ができる十分なスペースがあった。	2.教室環境(机、イスの配置など)は適切だった。	3.実習施設で、記録等に活用できる十分なスペースがあった。	4.チューターによるサポート(個別相談、進路相談など)は学生生活を送るうえで助けとなった。	5.教職員は学生の関心事に耳を傾け、近づきやすい存在であった。	6.学生生活における安全対策が充実していた。	7.学務課は、学生生活を円滑に送るうえで助けとなった。	8.課外活動をサポートする環境が整っていた。	9.就職や進学に関するサポートは充実していた。	10.海外研修などの研修制度は充実していた。
1年	平均 3.7 標準偏差 1.1	平均 4.1 標準偏差 0.9	平均 3.8 標準偏差 0.9	平均 4.2 標準偏差 0.9	平均 3.9 標準偏差 1.0	平均 4.2 標準偏差 0.8	平均 4.3 標準偏差 0.7	平均 4.0 標準偏差 0.8	平均 3.6 標準偏差 0.7	平均 3.3 標準偏差 0.9
2年	平均 4.0 標準偏差 1.0	平均 4.1 標準偏差 0.9	平均 4.1 標準偏差 0.8	平均 4.2 標準偏差 1.0	平均 3.9 標準偏差 1.0	平均 4.2 標準偏差 0.8	平均 4.3 標準偏差 0.8	平均 3.8 標準偏差 0.9	平均 3.7 標準偏差 0.9	平均 3.5 標準偏差 1.0
3年	平均 3.9 標準偏差 0.9	平均 4.0 標準偏差 0.9	平均 3.9 標準偏差 0.9	平均 3.9 標準偏差 0.9	平均 3.9 標準偏差 0.8	平均 4.1 標準偏差 0.7	平均 4.2 標準偏差 0.7	平均 3.7 標準偏差 0.9	平均 3.9 標準偏差 0.8	平均 3.5 標準偏差 1.0
4年	平均 3.9 標準偏差 1.0	平均 4.0 標準偏差 1.0	平均 3.8 標準偏差 0.9	平均 4.3 標準偏差 0.6	平均 4.2 標準偏差 0.7	平均 4.2 標準偏差 0.8	平均 4.2 標準偏差 0.8	平均 4.0 標準偏差 0.7	平均 4.0 標準偏差 0.8	平均 3.6 標準偏差 1.0

令和5(2023)年度「カリキュラム評価」(学年別)

平均4.5以上

平均4.0未満

【教育目標の達成状況について】

学年	1.専門的知識・技術を身につけることができた。	2.科学的根拠に基づいて実践する能力を身につけることができた。	3.自分の看護実践の過程を評価できるようになった。	4.生命と人権を尊重した高い倫理観を養うことができた。	5.豊かな感性により人間の感情・意思及び自己決定権を尊重する態度を養うことができた。	6.文章や他者の意見を理解する力が向上した。	7.他者に対する寛容性を持つことができるようになった。	8.人間を包括的に理解することができるようになった。	9.人との信頼関係を基盤とした人間関係を形成できるようになった。	10.個性に対応した看護を行うことができるようになった。	11.社会人として必要な言葉遣いやマナーを身につけることができた。	12.文章や他者の意見をふまえて自分の考えを説明する力が向上した。	13.チームで共同して活動するための個々の役割や責任について理解できた。	14.チームの一員として他職種と協調・協働できる態度を養うことができた。	15.論理的・科学的に思考することができるようになった。	16.保健医療福祉に関する地域特性を理解できるようになった。	17.教養と根拠に基づいて多角的に物事を分析できるようになった。	18.地域の特性を踏まえ課題探求する力を養うことができた。	19.看護専門職として地域に関わろうとすることができるようになった。	20.課題解決に向けて主体的に行動・学習することができるようになった。	21.看護職として自らの行動に責任を持つ態度を養うことができた。
1年(75)	平均 3.9 標準偏差 1.1	4.0 1.1	3.8 1.1	4.1 1.1	4.0 1.1	3.9 1.1	4.2 1.1	4.1 1.1	4.1 1.2	3.8 1.2	4.0 1.1	3.8 1.1	4.0 1.1	4.0 1.1	3.6 1.1	3.7 1.1	3.7 1.2	3.5 1.2	3.8 1.2	3.8 1.2	3.9 1.2
2年(81)	平均 4.0 標準偏差 0.8	4.0 0.8	4.0 0.8	4.3 0.9	4.3 0.9	4.0 0.9	4.1 1.0	4.1 0.9	4.0 1.0	4.0 0.9	3.8 1.1	4.0 1.0	4.2 1.0	4.2 1.0	3.8 1.0	3.9 0.9	3.8 0.9	3.8 1.0	3.9 1.0	3.9 1.0	4.2 0.9
3年(58)	平均 4.1 標準偏差 1.0	4.0 0.9	4.1 1.0	4.2 1.0	4.2 1.0	4.1 0.9	4.2 1.0	4.2 1.0	4.2 1.0	4.1 1.0	4.2 1.0	3.9 1.1	4.2 1.1	4.2 1.1	3.9 1.0	3.9 1.0	4.0 1.0	4.0 0.9	4.0 1.0	4.1 1.0	4.2 1.1
4年(59)	平均 4.0 標準偏差 1.0	4.1 0.9	4.1 0.9	4.3 1.0	4.4 0.9	4.2 1.1	4.4 0.9	4.2 1.0	4.3 1.0	4.1 0.9	4.2 1.0	4.0 0.9	4.3 1.0	4.3 0.9	4.1 0.9	4.1 0.9	4.2 0.9	4.1 0.8	4.3 0.9	4.2 0.9	4.3 0.9

【カリキュラムの編成・工夫について】

学年	1.授業科目の各学年への配置は学習する上で適切だった。	2.一般教養分野、看護専門基礎分野、基礎看護分野、地域・在宅看護分野、臨床看護分野、公衆衛生看護の統合分野の科目のバランスは適切だった。	3.一般教養分野、看護専門基礎分野、基礎看護分野、地域・在宅看護分野、臨床看護分野、看護の統合分野の領域間の関連性が適切にとれていた。	3.一般教養分野、看護専門基礎分野、基礎看護分野、地域・在宅看護分野、臨床看護分野、看護の統合分野の領域間の関連性が適切にとれていた。	3.共通教養分野、連携分野、看護専門基礎分野、基礎看護分野、公衆衛生看護の統合分野の領域間の関連性が適切にとれていた。	4.各科目の授業時間数は適切だった。	5.学生が自由に選択科目を選択できるように、授業科目が配置されていた。	6.基礎看護分野、地域・在宅看護分野、臨床看護分野、看護の統合分野において、一般教養分野及び看護専門基礎分野で学んだことが役に立っていた。	6.基礎看護分野、臨床看護分野、公衆衛生看護分野、看護の統合分野において、共通教養分野、連携分野及び看護専門基礎分野で学んだことが役に立っていた。	7.興味や関心のある科目が配置されていた。	8.一般教養分野の科目は幅広く開設されていた。	8.共通教養分野、連携分野の科目は幅広く開設されていた。
1年	平均 3.9 標準偏差 1.0	3.8 1.0	3.8 1.0	3.8 1.0	3.7 1.0	3.8 1.1	3.9 1.1	3.8 1.1	3.9 1.1	3.8 1.1	3.9 1.1	3.9 1.1
2年	平均 3.6 標準偏差 1.1	3.8 0.9	4.0 0.9	4.0 0.9	3.7 1.0	3.4 1.1	4.1 0.9	3.7 1.1	3.7 1.1	3.7 1.1	3.7 1.1	3.7 1.0
3年	平均 4.1 標準偏差 0.9	4.1 0.9	4.1 0.9	4.1 0.9	4.1 1.0	3.9 1.1	4.1 1.0	4.0 1.0	4.1 1.0	4.0 1.0	4.1 1.0	4.1 1.0
4年	平均 4.1 標準偏差 0.9	4.2 0.9	4.2 0.9	4.2 0.9	4.1 1.0	4.0 1.0	4.2 1.0	4.2 0.9	4.2 0.9	4.2 0.9	4.2 0.9	4.2 0.9

【カリキュラムの運用と学習支援について】

学年	1.ガイダンスを含む履修指導・履修相談は履修計画を立てる上で役立った。	2.履修手続きが円滑に行えるシステムが整っていた。	3.シラバスは学習の見通しを立てる上で役立った。	4.シラバスと実際の授業内容は合致していた。	5.オムニバス形式(複数の教員が担当して担当する授業科目)は、学習上効果的であった。	6.演習のある科目では、演習が効果的に行われていた。	7.講義・演習で学んだことが実習で活かされた。	8.実習のガイダンスならびにオリエンテーションは適切だった。	9.実習(指導体制、実習施設、時期、期間など)は満足するものであった。	10.出席は適切にとられていた。	11.成績評価方法は、シラバスに従い適切だった。
1年	平均 3.7 標準偏差 1.1	3.9 1.1	4.0 1.1	3.9 1.0	3.5 1.1	4.3 1.0	4.0 1.0	4.1 1.0	4.1 1.0	4.0 1.2	4.0 1.0
2年	平均 3.8 標準偏差 1.0	3.9 1.0	4.1 1.0	3.9 1.0	3.4 1.0	3.7 1.0	4.0 1.0	4.0 1.0	3.7 1.1	3.9 1.1	4.0 1.0
3年	平均 4.0 標準偏差 1.0	4.1 1.0	4.1 1.0	4.2 0.9	3.9 1.0	4.0 0.9	4.2 1.0	4.2 1.0	4.1 1.0	4.2 0.9	4.1 1.1
4年	平均 4.0 標準偏差 1.0	4.2 1.0	4.2 0.9	4.2 0.9	4.0 0.9	4.2 0.9	4.3 0.9	4.2 1.0	4.2 1.0	4.3 1.0	4.3 0.9

【学習環境について】

学年	1.ラーニングコモンズや学生ラウンジなど自主学習ができる十分なスペースがあった。	2.教室環境(机、イスの配置など)は適切だった。	3.実習施設で、記録等に活用できる十分なスペースがあった。	4.チューターによるサポート(個別相談、進路相談など)は学生生活を送るうえで助けとなった。	5.教職員は学生の関心事に耳を傾け、近づきやすい存在であった。	6.学生生活における安全対策が充実していた。	7.学務課は、学生生活を円滑に送るうえで助けとなった。	8.課外活動をサポートする環境が整っていた。	9.就職や進学に関するサポートは充実していた。	10.海外研修などの研修制度は充実していた。
1年	平均 4.2 標準偏差 1.1	4.2 1.1	4.1 1.1	3.8 1.1	3.7 1.2	4.1 1.1	4.1 1.1	4.0 1.0	3.6 1.0	3.9 1.1
2年	平均 4.1 標準偏差 1.1	3.7 1.1	3.9 0.9	3.8 1.1	3.8 0.9	4.1 0.8	4.0 0.8	3.7 1.0	3.7 0.8	3.8 0.9
3年	平均 4.2 標準偏差 1.0	4.3 0.9	4.2 1.0	4.2 0.9	4.1 0.9	4.1 0.9	4.3 0.9	4.2 0.9	4.1 0.8	4.1 0.8
4年	平均 4.1 標準偏差 1.0	4.1 1.0	4.1 1.1	3.9 1.1	3.9 1.1	4.2 0.9	4.2 0.9	3.9 1.0	3.8 1.2	3.5 1.2

令和6(2024)年度「カリキュラム評価」(学年別)

平均4.5以上

平均4.0未満

【教育目標の達成状況について】

学年	1.専門的知識・技術を身につけることができた。	2.科学的根拠に基づいて実践する能力を身につけることができた。	3.自分の看護実践の過程を評価できるようになった。	4.生命と人権を尊重した高い倫理観を養うことができた。	5.豊かな感性により人間の感情・意思及び自己決定権を尊重する態度を養うことができた。	6.文章や他者の意見を理解する力が向上した。	7.他者に対する寛容性を持つことができるようになった。	8.人間を包括的に理解することができるようになった。	9.人との信頼関係を基盤とした人間関係を形成できるようになった。	10.個性に対応した看護を行うことができるようになった。	11.社会人として必要な言葉遣いやマナーを身につけることができた。	12.文章や他者の意見をふまえて自分の考えを説明する力が向上した。	13.チームで共同して活動するための個々の役割や責任について理解できた。	14.チームの一員として他職種と協調・協働できる態度を養うことができた。	15.論理的・科学的に思考することができるようになった。	16.保健医療福祉に関する地域特性を理解できるようになった。	17.教養と根拠に基づいて多角的に物事を分析できるようになった。	18.地域の特性を踏まえ課題探求する力を養うことができた。	19.看護専門職として地域に関わろうとすることができるようになった。	20.課題解決に向けて主体的に行動・学習することができるようになった。	21.看護職として自らの行動に責任を持つ態度を養うことができた。
1年(75)	平均 4.3 標準偏差 0.6	4.2 0.7	4.1 0.8	4.4 0.7	4.4 0.6	4.3 0.6	4.3 0.6	4.2 0.6	4.3 0.7	4.0 0.8	4.1 0.8	4.2 0.8	4.4 0.5	4.3 0.7	3.9 0.7	3.8 0.9	4.0 0.7	4.0 0.9	4.2 0.7	4.2 0.9	4.3 0.7
2年(81)	平均 4.1 標準偏差 0.6	4.0 0.6	4.0 0.7	4.4 0.7	4.4 0.6	4.3 0.8	4.4 0.7	4.2 0.7	4.4 0.7	4.2 0.8	4.3 0.7	4.0 0.8	4.4 0.6	4.3 0.7	3.9 0.7	4.1 0.7	3.9 0.7	3.9 0.9	4.1 0.8	4.1 0.7	4.3 0.7
3年(58)	平均 4.3 標準偏差 0.5	4.3 0.5	4.3 0.5	4.5 0.5	4.4 0.5	4.4 0.5	4.5 0.6	4.4 0.5	4.5 0.5	4.3 0.5	4.5 0.6	4.3 0.6	4.5 0.5	4.5 0.5	4.2 0.6	4.3 0.5	4.3 0.5	4.3 0.5	4.3 0.5	4.4 0.6	4.4 0.5
4年(59)	平均 4.3 標準偏差 0.7	4.2 0.8	4.3 0.8	4.5 0.7	4.5 0.7	4.4 0.8	4.5 0.7	4.4 0.7	4.4 0.7	4.3 0.8	4.5 0.8	4.3 0.7	4.4 0.8	4.5 0.7	4.2 0.8	4.3 0.7	4.3 0.7	4.3 0.7	4.3 0.7	4.4 0.8	4.3 0.7

【カリキュラムの編成・工夫について】

学年	1.授業科目の各学年への配置は学習する上で適切だった。	2.一般教養分野、看護専門基礎分野、基礎看護分野・地域・在宅看護分野・臨床看護分野・看護の統合分野の科目のバランスは適切だった。	2.一般教養分野、看護専門基礎分野、基礎看護分野・地域・在宅看護分野・臨床看護分野・看護の統合分野の科目のバランスは適切だった。	2.共通教養分野、連携分野、看護専門基礎分野、基礎看護分野、基礎看護分野、公衆衛生看護分野、看護の統合分野の科目のバランスは適切だった。	3.一般教養分野、看護専門基礎分野、基礎看護分野・地域・在宅看護分野・臨床看護分野・看護の統合分野の領域間の関連性が適切にとれていた。	3.一般教養分野、看護専門基礎分野、基礎看護分野・地域・在宅看護分野・臨床看護分野・看護の統合分野・公衆衛生看護分野の領域間の関連性が適切にとれていた。	3.共通教養分野、連携分野、看護専門基礎分野、基礎看護分野、基礎看護分野、公衆衛生看護分野、看護の統合分野の領域間の関連性が適切にとれていた。	4.各科目の授業時間は適切だった。	5.学生が自由に選択科目を選択できるように授業科目が配置されていた。	6.基礎看護分野・地域・在宅看護分野・臨床看護分野・看護の統合分野において、一般教養分野及び看護専門基礎分野で学んだことが役に立った。	6.基礎看護分野・地域・在宅看護分野・臨床看護分野・看護の統合分野・公衆衛生看護分野で学んだことが役に立った。	6.基礎看護分野・臨床看護分野、公衆衛生看護分野、看護の統合分野において、共通教養分野及び看護専門基礎分野で学んだことが役に立った。	7.興味や関心のある科目が配置されていた。	8.一般教養分野の科目は幅広く開設されていた。	8.共通教養分野、連携分野の科目は幅広く開設されていた。
1年	平均 4.2 標準偏差 0.7	4.1 0.8	4.1 0.7	4.1 0.7	4.1 0.7	4.1 0.7	4.0 0.9	4.0 0.9	4.1 0.7	4.2 0.8	4.1 0.9	4.2 0.8	4.1 0.9	4.1 0.9	4.1 0.9
2年	平均 4.1 標準偏差 0.7	4.2 0.7	4.2 0.7	4.2 0.7	4.2 0.7	4.2 0.7	4.0 0.8	3.8 1.0	4.3 0.6	4.0 0.8	4.0 0.9	4.0 0.8	4.0 0.8	4.0 0.9	4.0 0.9
3年	平均 4.2 標準偏差 0.7	4.3 0.6	4.3 0.6	4.3 0.6	4.2 0.6	4.2 0.6	4.2 0.6	3.9 0.9	3.9 0.9	4.1 0.6	4.1 0.5	4.1 0.5	4.1 0.6	4.1 0.9	4.1 0.9
4年	平均 4.1 標準偏差 0.8	3.9 1.0	3.9 1.0	3.9 1.0	4.2 0.8	4.1 0.9	4.1 0.9	3.8 1.2	3.8 1.2	4.1 0.8	4.1 0.8	4.1 0.8	4.1 0.8	4.1 0.8	4.3 0.8

【カリキュラムの運用と学習支援について】

学年	1.ガイダンスを含む履修指導・履修相談は履修計画を立てる上で役立った。	2.履修手続きが円滑に行えるシステムが整っていた。	3.シラバスは学習の見通しを立てる上で役立った。	4.シラバスと実際の授業内容は合致していた。	5.オムニバス形式(複数の教員が担当して担当する授業科目)は、学習上効果的であった。	6.演習のある科目では、演習が効果的に行われていた。	7.講義・演習で学んだことが実習で活かされた。	8.実習のガイダンスならびにオリエンテーションは適切だった。	9.実習(指導体制、実習施設、時期、期間など)は満足するものであった。	10.出席は適切にとられていた。	11.成績評価方法は、シラバスに従い適切だった。
1年	平均 4.2 標準偏差 0.8	4.0 0.8	4.3 0.8	4.1 0.8	3.9 0.9	4.4 0.6	4.1 0.8	4.4 0.6	4.1 0.9	4.2 0.8	4.3 0.7
2年	平均 3.8 標準偏差 0.9	4.2 0.7	4.1 0.8	4.3 0.6	3.7 1.0	4.3 0.7	4.4 0.8	4.4 0.6	4.3 0.7	4.1 1.0	4.3 0.7
3年	平均 4.2 標準偏差 0.7	4.3 0.5	4.2 0.7	4.3 0.5	3.9 0.8	4.2 0.7	4.4 0.5	4.3 0.5	4.1 0.7	4.3 0.6	4.3 0.5
4年	平均 4.1 標準偏差 0.9	4.2 1.0	4.3 0.8	4.4 0.8	4.0 0.9	4.3 0.8	4.3 0.7	4.3 0.8	4.2 0.8	4.3 0.9	4.3 0.8

【学習環境について】

学年	1.ラーニングコモンズや学生ラウンジなど自主学習ができる十分なスペースがあった。	2.教室環境(机、イスの配置など)は適切だった。	3.実習施設で、記録等に活用できる十分なスペースがあった。	4.チューターによるサポート(個別相談、進路相談など)は学生生活を送るうえで助けとなった。	5.教職員は学生の関心事に耳を傾け、近づきやすい存在であった。	6.学生生活における安全対策が充実していた。	7.学務課は、学生生活を送るうえで助けとなった。	8.課外活動をサポートする環境が整っていた。	9.就職や進学に関するサポートは充実していた。	10.海外研修などの研修制度は充実していた。
1年	平均 4.5 標準偏差 0.5	4.3 0.9	4.4 0.6	4.3 0.8	4.2 0.9	4.5 0.6	4.4 0.6	4.3 0.8	4.1 0.8	4.2 0.8
2年	平均 4.3 標準偏差 0.8	4.4 0.6	4.1 1.0	3.8 1.1	3.7 1.0	4.4 0.6	4.2 0.8	4.0 0.9	3.7 0.9	3.9 0.9
3年	平均 4.4 標準偏差 0.7	4.0 0.8	4.0 0.8	4.1 0.7	4.0 0.7	4.4 0.5	4.3 0.6	4.0 0.7	3.9 0.8	4.0 0.7
4年	平均 4.2 標準偏差 0.9	4.3 0.7	4.1 1.0	4.3 0.8	4.3 0.8	4.5 0.6	4.4 0.6	4.1 0.9	4.2 0.9	4.0 1.0

令和7(2025)年度「カリキュラム評価」(学年別)

【教育目標の達成状況について】

学年	教育目標の達成状況について																					
	1.専門的知識・技術を身につけることができた。	2.科学的根拠に基づいて実践する能力を身につけることができた。	3.自分の看護実践の過程を評価できるようになった。	4.生命と人権を尊重した高い倫理観を養うことができた。	5.豊かな感性により人間の感情・意思及び自己決定権を尊重する態度を養うことができた。	6.文章や他者の意見を理解する力が向上した。	7.他者に対する寛容性を持つことができるようになった。	8.人間を包括的に理解することができるようになった。	9.人との信頼関係を基盤とした人間関係を形成できるようになった。	10.個性に対応した看護を行うことができるようになった。	11.社会人として必要な言葉遣いやマナーを身につけることができた。	12.文章や他者の意見をふまえて自分の考えを説明する力が向上した。	13.チームで共同して活動するための個々の役割や責任について理解できた。	14.チームの一員として他職種と協調・協働できる態度を養うことができた。	15.論理的・科学的に思考することができるようになった。	16.保健医療福祉に関する地域の特性を理解できるようになった。	17.教養と根拠に基づいて多角的に物事を分析できるようになった。	18.地域の特性を踏まえ課題探求する力が養われることができた。	19.看護専門職として地域に関わろうとすることができるようになった。	20.課題解決に向けて主体的に行動・学習することができるようになった。	21.看護職として自らの行動に責任を持つ態度を養うことができた。	
1年(77)	平均	4.1	3.9	3.9	4.5	4.4	4.3	4.5	4.2	4.3	4.2	4.2	4.1	4.5	4.4	3.9	3.8	4.0	3.8	4.0	4.2	4.3
	標準偏差	0.6	0.7	0.8	0.6	0.6	0.7	0.6	0.7	0.7	0.7	0.8	0.7	0.5	0.7	0.8	0.9	0.7	0.9	0.8	0.7	0.6
2年(79)	平均	4.3	4.1	4.2	4.5	4.4	4.4	4.5	4.3	4.4	4.4	4.4	4.3	4.6	4.4	4.1	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.4
	標準偏差	0.6	0.6	0.6	0.6	0.5	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.5	0.6	0.5	0.6	0.7	0.7	0.6	0.7	0.7	0.7	0.5
3年(65)	平均	4.4	4.2	4.3	4.5	4.5	4.3	4.4	4.4	4.6	4.5	4.5	4.3	4.6	4.6	4.2	4.2	4.1	4.2	4.3	4.4	4.6
	標準偏差	0.5	0.7	0.6	0.5	0.5	0.6	0.7	0.7	0.5	0.6	0.6	0.6	0.5	0.5	0.5	0.6	0.6	0.7	0.8	0.6	0.5
4年(61)	平均	4.5	4.4	4.4	4.7	4.7	4.5	4.7	4.6	4.6	4.5	4.4	4.3	4.7	4.7	4.2	4.3	4.4	4.4	4.4	4.6	4.6
	標準偏差	0.6	0.5	0.5	0.4	0.5	0.6	0.5	0.5	0.5	0.5	0.8	0.5	0.5	0.5	0.6	0.6	0.5	0.6	0.5	0.5	0.5

【カリキュラムの編成・工夫について】

学年	カリキュラムの編成・工夫について																	
	1.授業科目の各学年への配置は学習の上で適切だった。	2.一般教養分野、看護専門基礎分野、基礎看護分野・地域・在宅看護分野・臨床看護分野・看護の統合分野、訪問看護コース、保健師コースの科目のバランスは適切だった。	2.一般教養分野、看護専門基礎分野、基礎看護分野・地域・在宅看護分野・臨床看護分野・看護の統合分野の科目のバランスは適切だった。	2.一般教養分野、看護専門基礎分野、基礎看護分野・地域・在宅看護分野・臨床看護分野・看護の統合分野の科目のバランスは適切だった。	2.共通教養分野、連携分野、看護専門基礎分野、基礎看護分野、臨床看護分野、公衆衛生看護の統合分野の科目のバランスは適切だった。	3.一般教養分野、看護専門基礎分野、基礎看護分野・地域・在宅看護分野・臨床看護分野・看護の統合分野、訪問看護コース、保健師コース間の領域間の関連性が適切にとれていた。	3.一般教養分野、看護専門基礎分野、基礎看護分野・地域・在宅看護分野・臨床看護分野・看護の統合分野の領域間の関連性が適切にとれていた。	3.一般教養分野、看護専門基礎分野、基礎看護分野・地域・在宅看護分野・臨床看護分野・看護の統合分野の領域間の関連性が適切にとれていた。	3.共通教養分野、連携分野、看護専門基礎分野、基礎看護分野、臨床看護分野、公衆衛生看護の統合分野の領域間の関連性が適切にとれていた。	4.各科目の授業時間は適切だった。	5.学生が自由に選択科目を選択できるように授業科目が配置されていた。	6.基礎看護分野・地域・在宅看護分野・臨床看護分野・看護の統合分野・訪問看護コースにおいて、一般教養分野及び看護専門基礎分野で学んだことが役に立った。	6.基礎看護分野・地域・在宅看護分野・臨床看護分野・看護の統合分野において、一般教養分野及び看護専門基礎分野で学んだことが役に立った。	6.基礎看護分野・地域・在宅看護分野・臨床看護分野・看護の統合分野において、一般教養分野及び看護専門基礎分野で学んだことが役に立った。	6.基礎看護分野・臨床看護分野、公衆衛生看護分野、看護の統合分野において、共通教養分野、保健師コース及び看護専門基礎分野で学んだことが役に立った。	7.興味や関心のある科目が配置されていた。	8.一般教養分野の科目は幅広く開設されていた。	8.共通教養分野、連携分野の科目は幅広く開設されていた。
1年	平均	4.1	3.8						3.8		3.9					4.1	4.0	
	標準偏差	0.8	0.8						0.8		1.0					0.8	0.9	
2年	平均	4.3		4.3				4.3		4.0	4.1			4.4		4.3	4.2	
	標準偏差	0.6		0.6				0.6		0.8	0.9			0.6		0.7	0.9	
3年	平均	4.4			4.4				4.4	4.2	4.2			4.4		4.4	4.3	
	標準偏差	0.6			0.6				0.6	0.8	0.7			0.7		0.7	0.8	
4年	平均	4.1				4.2				4.2	3.9	3.8			4.3	4.2		4.3
	標準偏差	0.9				0.7				0.7	0.9	0.9			0.7	0.7		0.6

【カリキュラムの運用と学習支援について】

学年	カリキュラムの運用と学習支援について											
	1.ガイダンスを含む履修指導・履修相談は履修計画を立てる上で役立った。	2.履修手続きが円滑に行えるシステムが整っていた。	3.シラバスは学習の見通しを立てる上で役立った。	4.シラバスと実際の授業内容が合致していた。	5.オムニバス形式(複数の教員が分担して担当する授業科目)は、学習上効果的であった。	6.演習のある科目では、演習が効果的に行われていた。	7.講義・演習で学んだことが実習で活かされた。	8.実習のガイダンスならびにオリエンテーションは適切だった。	9.実習(指導体制、実習施設、時期、期間など)は満足するものであった。	10.出席は適切にとられていた。	11.成績評価方法は、シラバスに従い適切だった。	
1年	平均	4.1	4.2	4.2	4.1	3.7	4.5	3.9	4.1	4.0	4.1	4.3
	標準偏差	0.9	0.8	0.9	0.8	1.0	0.6	0.9	0.9	0.9	1.0	0.8
2年	平均	4.2	4.2	4.3	4.3	3.9	4.5	4.5	4.5	4.2	4.4	4.4
	標準偏差	0.8	0.8	0.6	0.6	0.8	0.5	0.6	0.6	0.8	0.6	0.7
3年	平均	4.2	4.4	4.3	4.4	4.3	4.5	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4
	標準偏差	0.8	0.7	0.8	0.7	0.8	0.6	0.6	0.7	0.8	0.8	0.7
4年	平均	4.2	4.2	4.3	4.6	4.1	4.5	4.5	4.5	4.2	4.3	4.4
	標準偏差	0.7	0.6	0.6	0.5	0.8	0.6	0.5	0.5	0.8	0.6	0.6

【学習環境について】

学年	学習環境について										
	1.ラーニングコミュニティや学生ラウンジなど自主学習ができる十分なスペースがあった。	2.教室環境(机、イスの配置など)は適切だった。	3.実習施設で、記録等に活用できる十分なスペースがあった。	4.チューターによるサポート(個別相談、進路相談など)は学生生活を円滑に送るうえで助けとなった。	5.教職員は学生の関心事に耳を傾け、近づきやすい存在であった。	6.学生生活における安全対策が充実していた。	7.学務課は、学生生活を円滑に送るうえで助けとなった。	8.課外活動をサポートする環境が整っていた。	9.就職や進学に関するサポートは充実していた。	10.海外研修などの研修制度は充実していた。	
1年	平均	4.3	3.8	3.7	3.9	3.9	4.2	4.3	4.1	3.6	4.0
	標準偏差	0.8	1.1	1.0	0.9	0.9	0.9	0.7	0.8	0.9	0.8
2年	平均	4.5	4.5	4.2	4.1	4.1	4.4	4.4	4.2	4.1	4.1
	標準偏差	0.7	0.7	0.8	0.9	0.9	0.7	0.6	0.7	0.8	0.8
3年	平均	4.5	4.6	4.4	4.0	4.3	4.4	4.5	4.2	4.2	4.3
	標準偏差	0.7	0.6	0.7	1.0	0.8	0.7	0.7	0.8	0.7	0.7
4年	平均	4.2	3.9	4.1	4.4	4.2	4.3	4.3	4.0	4.0	4.0
	標準偏差	0.8	1.0	0.8	0.6	0.6	0.6	0.6	0.8	0.7	0.8